4.22.7.22.（柏倉、武田隆昌氏より）寄贈

とかち新聞

主筆　松山明

（発行所）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社

発言する　新倉万鏡

一、拓鉄バスの会社側が譲歩しないので、いつまでも運休では足寄町民何千という人が足をもがれた様で困るが、町として何とか打つ手はないものか

二、安保条約の改廃は日本国民の自由独立か奴隷かという重大な岐路に立つている。全国的反対運動を起さなければならない時に、足寄町民だけ対岸の火事視していてよいか時代の導きの星の役割をなすべきはずの「とかち新聞」は沈黙していてよいか、一考をうながす。（共産党地区委員長）

私の發言

ないかひとことと　―特別寄稿―

町民に訴える　大久保　繁

農民の忘れもの

私達は日常生活の中で何か大切な事を忘れてはいないだろうか。お互いに機会がある毎に心の中の忘れたものを探し出し想い出した事を実行に移したなら、必ずやその事が仕事の上に生活の上に良い結果をもたらすものと確信する。

さて、農民諸君は最も大切な事を忘れているのではないか、それは団結である

動労者諸君を見給え、彼等は個々では何等の力を持合せていない様に思われるけれども、その社会的、政治的地位の獲得と経済生活の向上確保に着実に実績をあげているではないか、それはただ団結の力の然らしめるところである。

我々農民がこの団結という力の上手な使い方を忘れていては、よりよい経済生活の確保も社会的地位の向上も容易に望めまい。

自主協販の確立

農民は実によく仂くが豊かでないのは何故か。或る人はいう、国の農業政策が悪いと、その他にも色々事情はある、しかし我々自体の力で解決のできる最も大切な事が残っている。我々が使用する経営資材も生活用品も、その価格は例外なくその生産者自身が生産原価にいくばくかの利益と宣伝費を加算しているのであるが、我々農民の生産物の販売方法はどうであったろうか。それは全く我々生産者の意志とは関りなく、利益どころか生産原価も考慮される事なく、中間雑穀業者の思惑による相場によって取引が行われてきたのである。この様な販売体制が続く限り、我々雑穀生産農家の経営の安定も経済の発展向上も期する事ができないのである。我々も他業者と同様に自分達の生産したものの販売に当っては自分達の生産原価にそれ相当の所得を加算した価格で販売する態形を確立すべきである。その事が三十三年度実施され又本年産も実施されんとしている自主協販制度なのである。これを推し進めるには一元集荷多元販売によってのみ可能なのであり、これが実現は実に農民の理解と団結によってのみ達成できるのである。

業者を圧迫しない

自主協販の推進確立に当って、農民は農協の組合員であるとか或いは非組合員であるとか、お互いの立場の差を論ずる事なく、自分等の生産物は自分等の意志によって価格を決定するという、共通の目的達成のために大同団結すべきである。

私はこの様な大切な団結を農民諸君が忘れているのじゃないかと思うのである只一つ団結によってのみ前述の目的が達成でき、そのことが経営の安定と経済の向上が促進される事を銘記すべきである。一部業者がこの自主協販制度に猛烈な反対運動を起している事は何故か、農民は深く考えるべきである。我々が元集荷を主張するのは前述の目的達成のためであって、決して業者を不当に圧迫したりするものではない。

町発展のために

我々は前述の目的に業者にも心から理解してもらい、一般町民の方々は、専業に対する理解と御協力を願いたいのである。町は豊かでもない財政のなかから農業関係にそれ相当の助成をし指導に力を入れているということは、終局的には各農家個々の経営の安定と経済の向上にあるはいうまでもなく、このための一環としてこの事業にも積極的に力を入れるべきである。

私は議会議員の一人として議会活動の中にもこれをとり入れて仂きかけてゆきたい。農民の経営が安定し経済が向上する事は農民の利益ばかりでなく、担税力や消費力が伸びる事でありとりもなおさず町発展の要因であると確信するからである。私はこれが議会議員として一期間、忘れもせずをしない様に心がけてその責を果す積りである。議員が常に立候補時の気持や公約を忘れない様心がけて議会活動をするならば、必ずや町民各位に喜ばれる町政が行われるものと確信するからである。よろしく町民各位の御指導御援助を念願する次第である。

（町議会議員）

一大決断力を　野田武三郎

町政に当る理事者に対して心から教育優先をお願いいたします。

文化、産業、経済等の進展発達の根源をなすものは教育であると確信しております。―多少手前味噌の感じを受けられますが―教育の機会均等を図らなければならないという"ことば"は容易に口に出ますが、その実現は容易なものでありません。

一大決断力が必要です。

（東小学校長）

☆　☆　☆

へき地のヘソ曲り　梅田広治

八年前、十勝に再就職の際、胸の方は大丈夫かと問われ、腹は黒いかも知れないが胸はきれいなつもりだと言つて、身体検査をあとまわしにして赴任したのだつたが、ヘソ曲りだけは自分でも気がつかなかつた。

閑もなく紐もないので自主独往だといばつてはみたものの、町内一不完全な施設を背負つて以来、さつぱり改善も進展も見ないでは父兄や子供に申しわけがない。或る地区では立派な遊休施設が昼寝をしているのに、うちの校長だけは何をしているのかとつめられればいきおい強力なバツクも欲しくなる。

教育委員会では、へき地差の縮少、教育の機会均等を教育行政の基本方針と定めているが、実施がなければ空念仏といわざるを得ない。

いわゆる有力者の鼻息をうかがいボスの圧力に屈して節をまげ、公正な施策が出来ぬようでは困つたもので文部省改定の指導要領「道徳」の部にもある筈。

さて大足寄の文教政策の穴といつたら公民館のないことだろう。公民教育は必ずしも建物ではないが、さしあたり移動公民館と地区毎の分館開設などどうか、それには一にも二にも人を得ることである。

（旭丘小学校長）

（優しい子Hさん）　近藤悦朗

「陰徳あれば陽報あり」とは我々少年時代の道徳観の一節であつた。社会人としてその美徳をうたわれるには、功を求めずして他人に徳を施すにある。と訓えられ信じさせられたものである。

この道徳観は仏教的なものかどうかは知らないが、しかし徳を売り物にして尚あき足らず、己れの功を無理矢理に他人に知らしめて自己の地位を獲得せんとする。似非紳士の如何に多き事か、是れが現実主義の世の中と謂うものであろうか

斯かる時代と世相にあつて最近のヒット・ニュースは、道新七月三十一日版に報道された、足寄農協勤務の清水H子さんの行為ではあるまいか。世の人々がこの人のように優しく美しくしかも勇気と自制と愛情の持主でなくては出来ない事をなし続けられたことに最大の讃辞と敬意を表すべきである。かかる心情の持主こそ真の仏心であり即心是仏と申すべきではあるまいか。（町農業委員会長）

暑中お伺い申上げます

足寄町議会議員（いろは順）

細野又市　大浦勉　大滝弥助　加藤甚一　吉川政雄　工藤虎男　久保久八

藤原善四郎　小林弘道　斉藤恒次郎　斉藤昇　嶺和衛　宮川孫市　森繁

北海道議会議員　岡崎光三

足寄町

町長　高橋安蔵
助役　諸戸大三郎
収入役　高野一義

町議会
議長　土田今吉
副議長　多田梅松

選挙管理委員会
委員長　甲斐周蔵

農業委員会
会長　近藤悦朗

教育委員会
委員長　三宅隆義
教育長　神本三家雄

消防団
団長　岡崎光三
副団長　片岡藤三郎
同　鈴木岩太郎

遺族会
会長　鈴木岩太郎
副会長　宮川一也
同　大浦政雄
幹事　大竹口重利
同　小尾英雄

国民健康保険病院
院長　橋英一

社会福祉協議会
副会長　三宅隆義
同　多田梅松

民生委員協議会
常務委員三宅隆義
副常務委員　多田梅松
同　新海義宗

足寄郵便局　局長　大井木一
芽登郵便局　局長　安田光信
大誉地郵便局　局長　高野三郎
上利別郵便局　局長　久弥田厚二
帯広統計調査事務所　足寄出張所　所長　大塚正夫
十勝支庁足寄林産物検査員駐在所　所長　鈴木正
雪印乳業株式会社　足寄工場　工場長　中仙道忠雄
日本甜菜製糖KK　足寄原料支所　所長　太田勇
北海道銀行　足寄支店　支店長　兼平一也
帯広信用金庫　足寄支店　支店長　山田数之
日本通運北見支店　足寄営業所　所長　山本弘
足寄通運株式会社　社長　岡崎光三
足寄貨物自動車KK　社長　加藤伊三郎

阿寒硫黄鑛業所
副社長・鉱業所長　森泉城一
足寄出張所長　市川貞一郎
T七四

足寄町森林組合
代表役員　羽磨卯吉郎
日裏庄太郎

足寄商工会
会頭　羽磨卯吉郎
副会頭　三宅隆義
同　久保正夫
専務理事　土田今吉

足寄町学校長会
会長　松木順司

自由民主党足寄支部
支部長　岡崎光三

日本社会党足寄支部
支部長　斉藤昇

足寄町政治力結集協議会

足寄町民主団体連絡協議会

足寄町郷土振興会

森林資源を愛護しましょう！
林力増強につとめましょう！

九州大学北海道演習林
事務所長　矢野虎雄
T一〇八・四〇一

足寄営林署
署長　杉山甫